



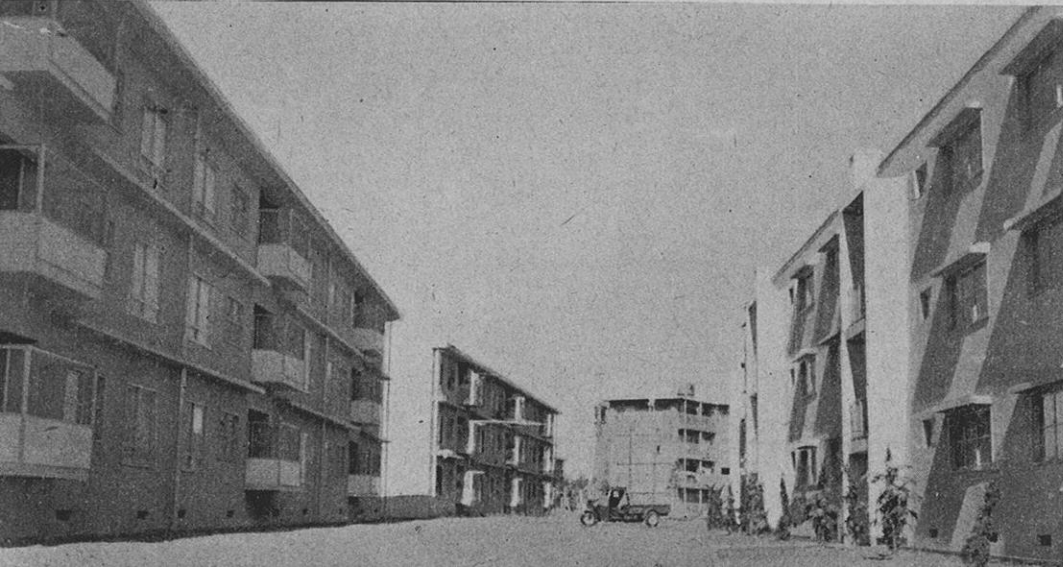
Y型アパートの食堂と台所 合理的に設計された食堂と台所は広く明るくて働き易い。中央前方は風呂場、左の扉がW・Cである。



28年度Y型アパート 県下ではじめてのY型鉄筋アパートは敷地が少なくてすむからよい。間取りその他に色々新機軸を生み出している。風呂場がついているのもこのアパートだけ。ベランダの金網も細目のものを使用して危険を防ぐなど気を配っている。(全出水町堀の内団地)



30年度ブロック建築 この年度から「低コスト」と「耐久力」をねらってブロック建築を多数採用。間取りは勿論配色にも近代的な感覚を盛って、ごらんのようなスマートさである。このほかブロックによる2階建も建てている。(全帯山第3団地)



31年度鉄筋アパート そり立つアパートの群は県営住宅の今後の方向を示しているようである。(全出水町堀の内団地)

カメラ・ルポ 近代化する県営住宅

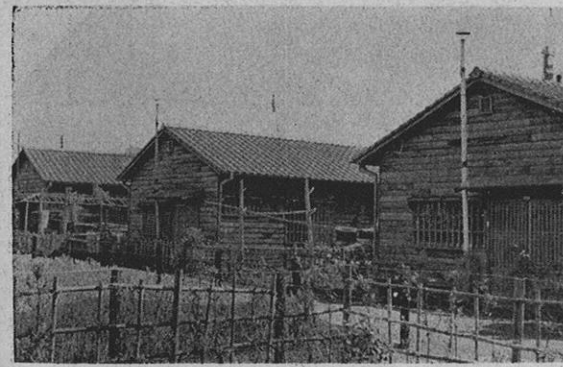
県営住宅も時代とともに進んでゆく。木造から木造耐火、更に鉄筋或はブロックへと、「量」から「質と量」への前進。合理化された県営住宅は、今後の住宅の方向を暗示している。



昭和22年度 終戦後の混乱時代、極度に不足していた住宅を何はともあれ「量」の面で解決しようとしたいわば県営住宅の第1号。(熊本市砂取団地)



24年度 木造の1戸建 といえば当時にしては素晴らしい住宅であつた。健軍団地のもは2戸建。この頃まではまだ耐火建築ではなかつたが、翌年度から木造耐火建築が多くなつた。(全渡鹿団地)



28年度災害住宅 6・26水害の被災者の為に建てられたもの。この頃はすでに木造の建設は打切つていたので、木造県営住宅はこれが最後のもの。(全帯山第1団地)



30年度母子住宅 住宅難は母子家庭にとっては特に大きいナヤマである。そこで建てられたブロック住宅がこれ。(全帯山第3団地)



30年度 土地建売住宅 付きのこの住宅は28年度から建て始められたが極めて好評31年度分も出水町に建設中。(全出水町堀の内団地)